

姫路文学館コンサート

西沖直美

クリスマスピアノコンサート

CHRISTMAS CONCERT in HIMEJI

NAOMI NISHIOKI, Piano



2019年12月1日(日) 14:00開演

姫路文学館 北館3階講堂

◆ ◆ ◆ PROGRAM ◆ ◆ ◆

ヘンデル/モシュコフスキー編
G.F.HÄNDEL/arr.M.MOSZKOWSKI

「リナルド」より 涙の流れるままに
LASCIA CH'IO PIANGA "RINALDO"

リスト
F.LISZT

ローレライ
DIE LORELEI

ワーグナー/リスト編
R.WAGNER/arr.F.LISZT

イゾルデの愛の死
ISOLDENS LIEBESTOD

クリスマスキャロル CHRISTMAS CAROLS
ベツレヘムの小さな町で
赤鼻のトナカイ
きよこの夜

O LITTLE TOWN OF BETHLEHEM
RUDOLPH THE RED-NOSED REINDEER
SILENT NIGHT, HOLY NIGHT

ショパン/リスト編
F.CHOPIN/arr.F.LISZT

バッカナール(酒宴)
BACCHANAL

オフエンバック/モシュコフスキー編
J.OFFENBACH/arr.M.MOSZKOWSKI

「ホフマン物語」より 舟歌
BARCAROLLE "TALES OF HOFFMANN"

◆◆◆ PROGRAM NOTE ◆◆◆

「リナルド」

原作は、トルクアート・タッソの「エルサレム解放」。タッソは、1544年イタリア生まれの文学者。

「エルサレム解放」は、1099年に、キリスト教徒による第1次十字軍が、イスラム教徒から聖地エルサレムを攻略したという史実を題材にしている。

タッソは、激しい宗教戦争を生々しく描写しながら、異教徒への絶望的な愛に苦しむ登場人物たちを、宗教から離れたひとりの人間として描き出している。

キリスト教徒の勇猛な騎士タンクレーディは、イスラム教徒の女戦士クロリンダに、激しい愛情の心を抱くが、クロリンダとの一騎打ちで、本人とは気付かず殺してしまう。顔から武器を外したとき、真実を知って悶え苦しむ。

イスラム教徒の王女アルミーニアは、かつてキリスト教徒に囚われの身となったときに、タンクレーディに救われたことがあり、

タンクレーディに盲目的な恋心を抱いているが、宗教としても、女性としても、報われる可能性は全くない。

イスラム教徒の女性アルミーダは、キリスト教徒をイスラム教に改宗させようと様々な企みを実行するが、

キリスト教徒のリナルドを目見て、憎しみは愛情に変わってしまう。

イスラム教徒が敗北したとき、アルミーダが自害しようとするのを、リナルドはとめる。

愛情ゆえの行動か、倫理ゆえの行動か、曖昧なまま、物語は幕を閉じる。



アンニバレ・カッラッチ「リナルドとアルミーダ」
(ナポリ、カーボディモンテ国立美術館)

ヘンデル作曲のオペラ「リナルド」では、原作から離れた筋書きになっている。

「エルサレム解放」は、多くの文豪、音楽家、画家に影響を及ぼした。

この文学をもとにした多くの名画が残されている。

また、タッソの文学を特に好んでいたリストは、タッソの生涯の喚起である交響詩「タッソ」を作曲した。

「ローレライ」

ライン川にある岩山の名前。流れが速く、船の難所であったことから、ローレライの伝説が生まれ、ハインリヒ・ハイネがそれを詩で表現し、リストは詩に音楽を付けた。

よく晴れた日、空気は澄み渡り、水夫たちは元気よくライン川を航行する。

ローレライの岩の近くにさしかかると、どこからともなく、美しい歌声が聞こえてくる。

歌声に聞き惚れてふと岩を見上げると、金髪の美しい女性が髪を櫛でとかしている。

乙女の姿と歌声にうっとりしていると、船は突然岩礁に乗り上げ、転覆してしまう。

水夫たちは川に投げ出され、あっという間に、船とともに波にのまれ、命を奪われる。

ライン川は、まるで何事もなかったかのように、また静かに流れていく。



ローレライ岩



伝説の乙女の像

「イゾルデの愛の死」

フランス、ブルターニュ地方の紀元1,000年頃の伝説に基づき、「トリスタンとイゾルデ」の物語は生まれた。

ブルターニュの騎士トリスタンと、アイルランドの王女イゾルデは、

誤って恋の媚薬を飲んでしまい、愛し合う運命となる。

ふたりは引き離され、それぞれ別の配偶者と結ばれるが、数々の障害を乗り越え、お互いの愛情を貫く。

「イゾルデの愛の死」は、物語の最後の場面。

戦いで深い傷を負った瀕死のトリスタンが、死ぬ前にイゾルデに一目会いたいと願う。

盟友カエルダンは、自分の妹がトリスタンの妻であるのだが、

彼の最後の願いを叶えてあげたいと、イゾルデを迎えに行く。

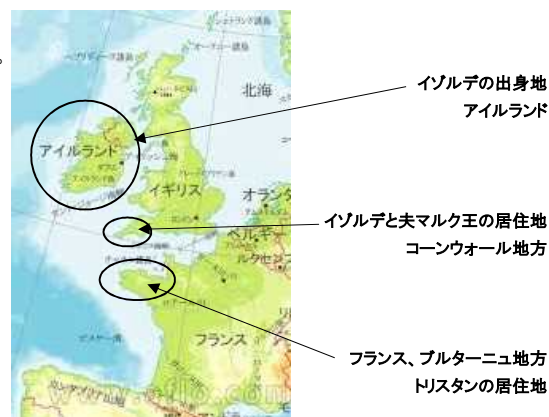
イゾルデを乗せた船がブルターニュの沖に見え、希望のしるしの「白い帆」があげられているが、

瀕死のトリスタンは見るができない。

復讐心にとらわれた妻が、「黒い帆」だと告げると、トリスタンはすべての希望を失って、死んでしまう。

トリスタンの遺骸のそばで、悲しみのあまりイゾルデも死んでいく。

「イゾルデの愛の死」は、リスト以外に、モシュコフスキーもピアノ曲への編曲を行っている。



ごあいさつ

本日は、姫路文学館コンサートにお越し頂きまして、どうもありがとうございます。

プログラムには、“物語のある旋律”を揃えました。

史実や伝説から物語が生まれ、作曲家がそれを音楽で表現し、美しい旋律を生み出しました。

さらに、ピアノ独奏用の編曲が行われ、華やかなピアノ曲がたくさん作られました。

今日は、モシュコフスキーとリストという偉大な作曲家による編曲作品をお届けします。

元の旋律の美しさに加えて、モシュコフスキーの特徴や、リストらしさも感じ取っていただければ嬉しいです。

西沖直美